

2017年2月期 (2016年3月1日~2017年2月28日)

決算説明資料



©2017「君の臓物をたべたい」製作委員会 ©住野よる / 双葉社

2017年4月14日



東宝株式会社

阪急阪神東宝グループ

2017年2月期 通期 営業概況

	2016年2月期 (2015年3月～2016年2月)	2017年2月期 (2016年3月～2017年2月)	前期比	増減率
営業収入	229,432百万円	233,548 百万円	4,116百万円	1.8%
営業利益	40,710百万円	50,223 百万円	9,512百万円	23.4%
経常利益	42,471百万円	51,562 百万円	9,090百万円	21.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	25,847百万円	33,252 百万円	7,405百万円	28.7%

【当期の営業概況】

主力の映画事業は、『映画ドラえもん 新・のび太の日本誕生』『名探偵コナン 純黒の悪夢（ナイトメア）』がシリーズ最高成績となりアニメ作品が好調。なかでも『君の名は。』が邦画歴代2位となる歴史的な大ヒット。加えて『シン・ゴジラ』が邦画実写 1ヒットとなり、これらの当社製作2作品の好成績が映画事業（映画営業事業・映画興行事業・映像事業）の増収増益及び全社の業績を牽引。

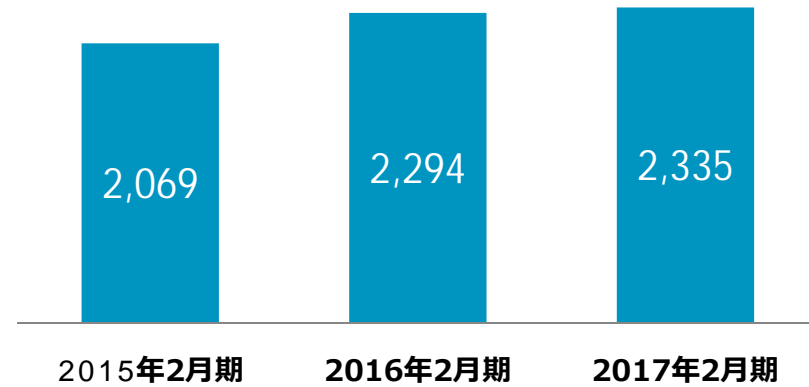
演劇事業は、『Endless SHOCK』『エリザベート』『ジャージー・ボーイズ』『ナイスガイ in ニューヨーク』などの人気公演があり増収だったものの減益。

不動産事業は、「新宿東宝ビル」をはじめ所有する賃貸物件が堅調に推移し、減収ながら増益。

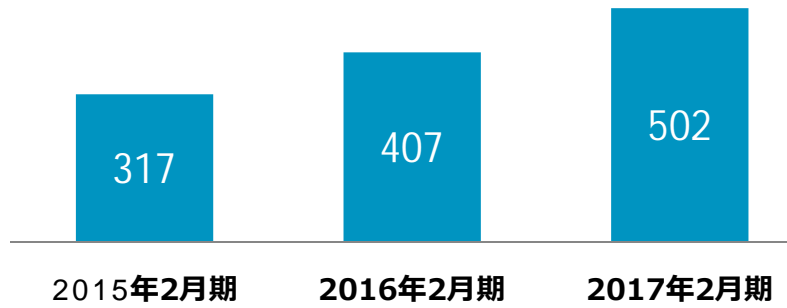
通期では「営業収入」「営業利益」「経常利益」「親会社株主に帰属する当期純利益」の各段階で過去最高を達成。

営業概況3カ年比較

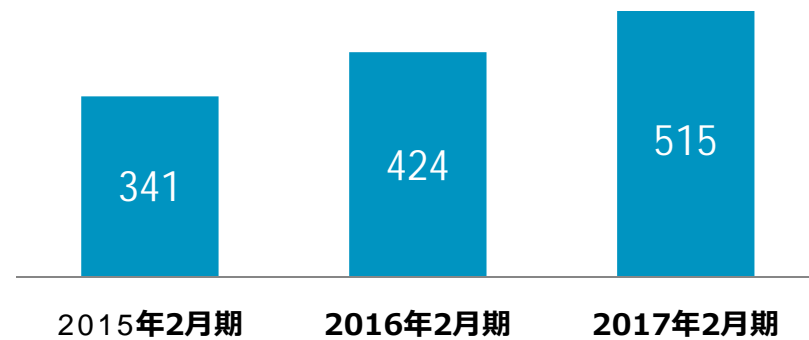
営業収入



営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益



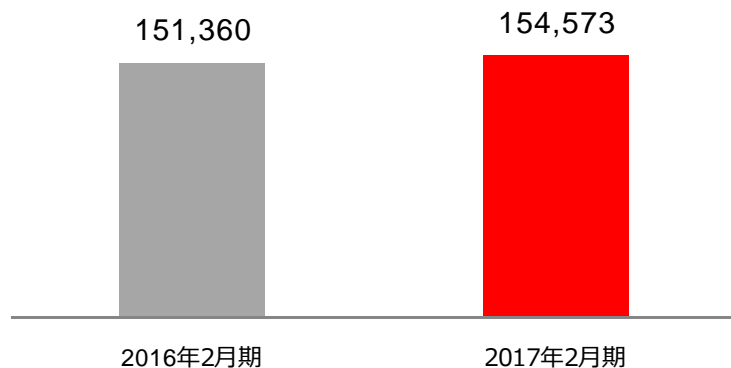
(単位: 億円)

セグメント別業績一覧

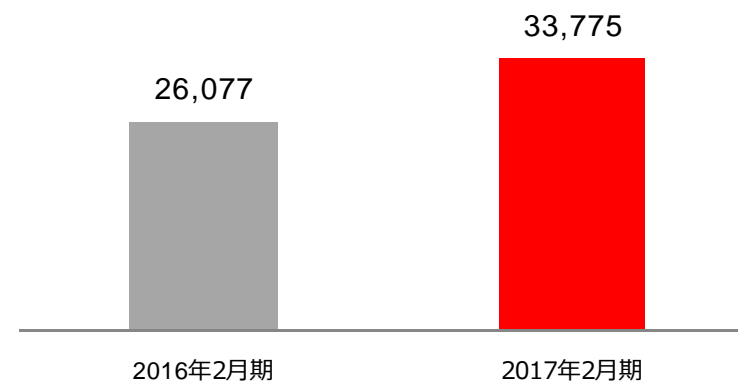
	営業収入 (単位:百万円)			営業利益 (単位:百万円)		
	2016年2月期 (2015年3月~2016年2月)	2017年2月期 (2016年3月~2017年2月)	増減率(%)	2016年2月期 (2015年3月~2016年2月)	2017年2月期 (2016年3月~2017年2月)	増減率(%)
映画事業	151,360	154,573	2.1%	26,077	33,775	29.5%
映画営業	49,217	46,188	-6.2%	11,633	15,279	31.3%
映画興行	73,518	79,025	7.5%	9,031	11,001	21.8%
映像事業	28,623	29,359	2.6%	5,411	7,494	38.5%
演劇事業	14,978	15,586	4.1%	3,482	3,268	-6.1%
不動産事業	62,120	61,442	-1.1%	14,789	16,830	13.8%
不動産賃貸	32,215	31,371	-2.6%	12,009	13,728	14.3%
道路事業	20,278	20,254	-0.1%	1,864	2,169	16.4%
不動産保守・管理	9,626	9,816	2.0%	915	932	1.9%
その他事業	973	1,946	100.0%	30	135	350.1%

セグメント別業績【映画事業】

営業収入



営業利益



(単位：百万円)

業績分析（増減要因）

定番のアニメ・シリーズ（ドラえもん、クレヨンしんちゃん、名探偵コナン）の好調な成績に加えて、『君の名は。』『映画 妖怪ウォッチ 空飛ぶゴジラとダブル世界の大冒険だニャン！』などのアニメ作品が業績を牽引。特に『君の名は。』は興行収入248億円を超える歴史的なヒットを記録したほか、『シン・ゴジラ』が興行収入82億円を超え、新たなゴジラファンを獲得し高稼働。東宝東和等配給作品は『ジュラシック・ワールド』等のヒット作に恵まれた前期には及ばず、映画営業事業は減収となるも大幅増益を達成。（興行収入は4月10日時点）

上記の当社グループ配給作品のほか『ズートピア』『ファインディング・ドリー』（ウォルト・ディズニー）、『ファンタスティック・ビーストと魔法使いの旅』（ワーナー・ブラザーズ）等が期待通りのヒットを記録。洋画全体として昨年ほどの大ヒットには恵まれなかったものの、当社配給作品の好調により、映画興行事業は増収増益。

パッケージ事業では『刀剣乱舞-花丸-』『暗殺教室～卒業編～』等のBlu-ray・DVD販売が好調。ODS事業では『闇金ウシジマくん Part 3 / ザ・ファイナル』がヒット。アニメ制作事業では『僕のヒーローアカデミア』『君の名は。』等に製作出資し業績に大きく貢献。出版・商品事業では『君の名は。』のパンフレット・キャラクターグッズやゴジラ関連商品等が堅調に推移し、映像事業は増収増益。

映画 - 通期 稼働作品 -

当社配給作品（興行収入30億円以上）

作品名	公開月	興行収入
『君の名は。』	2016年8月	248.2億円
『シン・ゴジラ』	2016年7月	82.5億円
『名探偵コナン 純黒の悪夢(ナイトメア)』	2016年4月	63.3億円
『映画ドラえもん 新・のび太の日本誕生』	2016年3月	41.2億円
『暗殺教室～卒業編～』	2016年3月	35.2億円
『映画 妖怪ウォッチ 空飛ぶクジラとダブル世界の大冒険だニャン!』	2016年12月	32.2億円

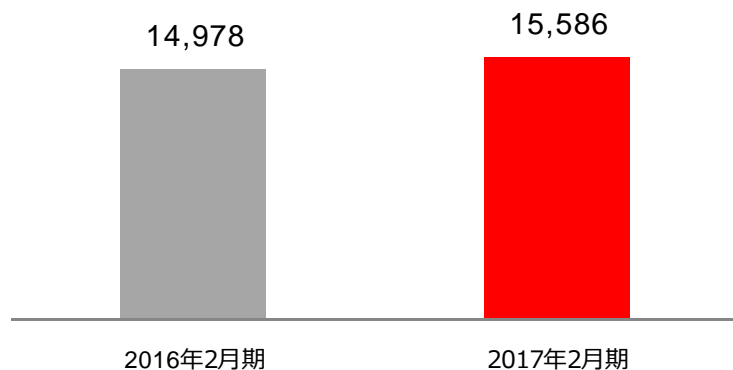
東宝東和(株)配給作品（興行収入30億円以上）

作品名	公開月	興行収入
『ペット』	2016年8月	42.4億円

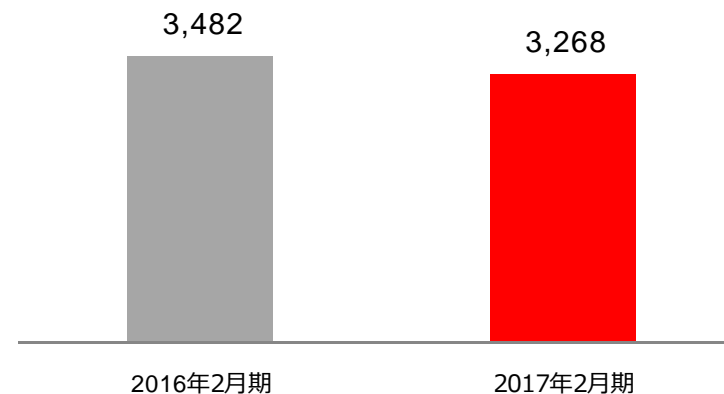
興行収入は2017年3月末日時点

セグメント別業績【演劇事業】

営業収入



営業利益



(単位：百万円)

業績分析（増減要因）

帝国劇場では、『Endless SHOCK』（3月公演）が完売公演、『エリザベト』（6～7月公演）が連日の満席。初演作として、『1789 -バスターユの恋人たち-』（4～5月公演）、『王家の紋章』（8月公演）が高稼働し、再演も決定するなど今後のラインナップの強化につながる成果。エンジニア役の市村正親のファイナルステージとなる『ミス・サイゴン』（10～11月公演）が大入り盛況となるなど好調に推移。

シアタークリエでは、『ジャニーズ銀座2016』（4～5月公演）が全席完売。『ジャージー・ボーイズ』（6～7月公演）は第24回読売演劇大賞の最優秀作品賞、最優秀男優賞、優秀演出家賞の3部門を受賞し高い作品評価を得る。『ナイスガイ in ニューヨーク』（12月公演）も連日満席。

日生劇場では、『ABC座2016 株式会社応援屋!! OH&YEAH!!』（10月公演）が全席完売となり、『フランケンシュタイン』（1月公演）等のバラエティに富んだ作品を提供。
演劇事業全体では、前年度との演目の違い等により増収減益。

演劇事業 - 主要稼働作品 -



2016年3月帝国劇場公演
『Endless SHOCK』



2016年6～7月帝国劇場公演
『エリザベート』

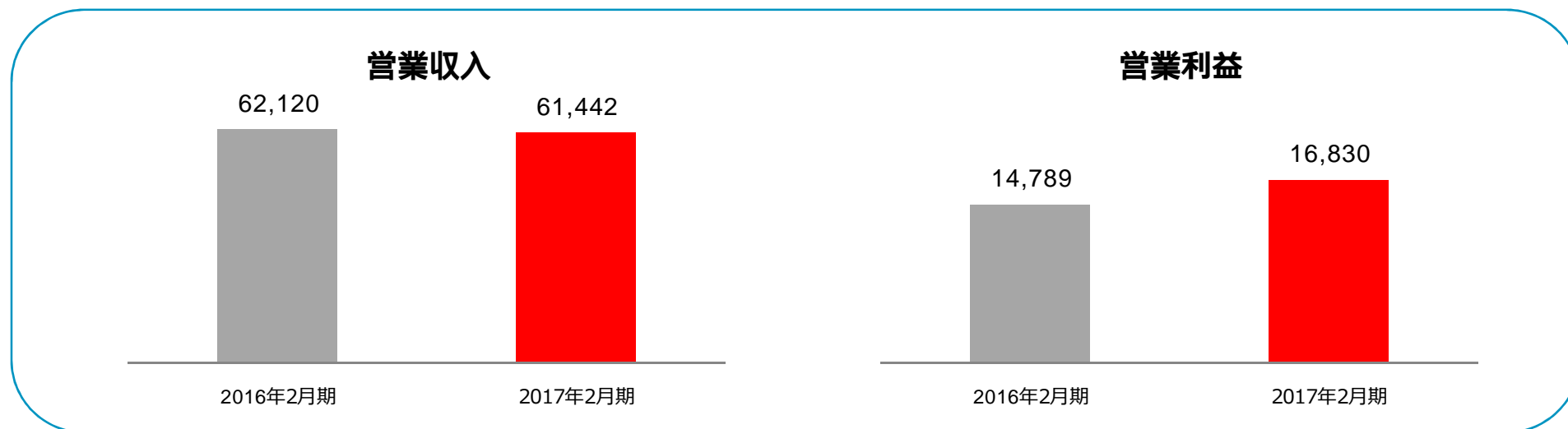


2016年6～7月シアタークリエ公演
『ジャージー・ボーイズ』



2016年12月シアタークリエ公演
『ナイスガイ in ニューヨーク』

セグメント別業績【不動産事業】



(単位：百万円)

業績分析（増減要因）

不動産賃貸事業では、全国に有する賃貸物件が堅調に稼働したほか、2015年4月に開業した「新宿東宝ビル」も業績に貢献し、減収となるも大幅増益。東宝スタジオは、当社配給作品『3月のライオン』『ジョジョの奇妙な冒険 ダイヤモンドは砕けない 第一章』等の撮影やTV・CM撮影の誘致によりステージレンタルが順調に稼働。

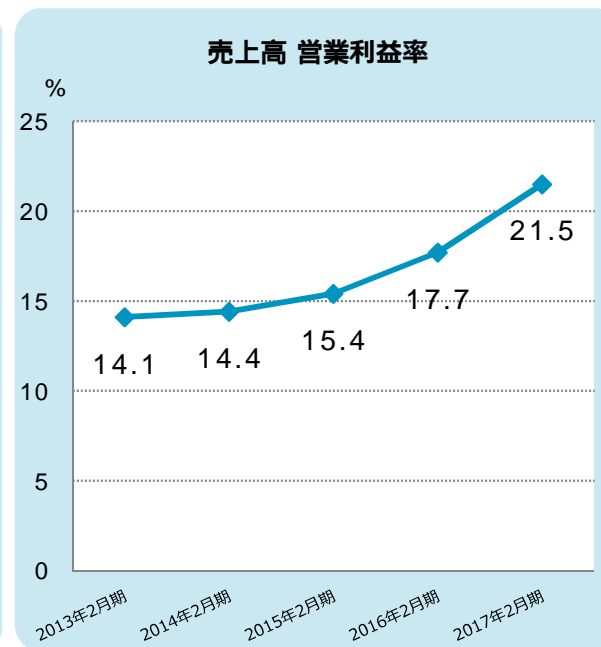
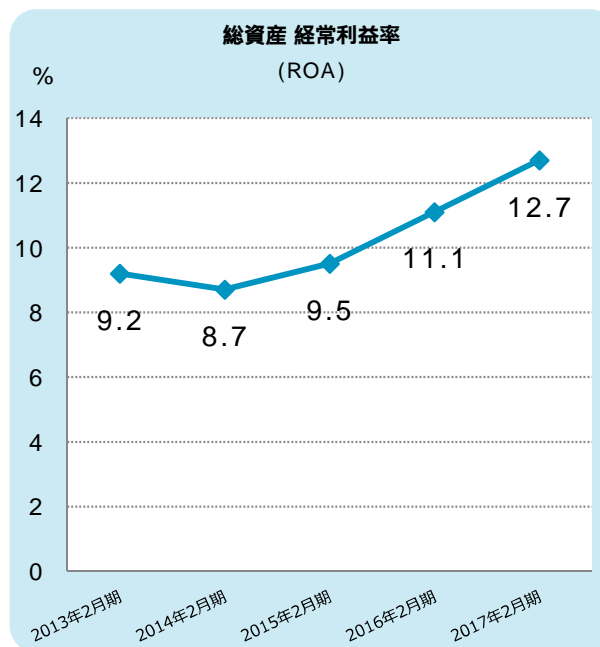
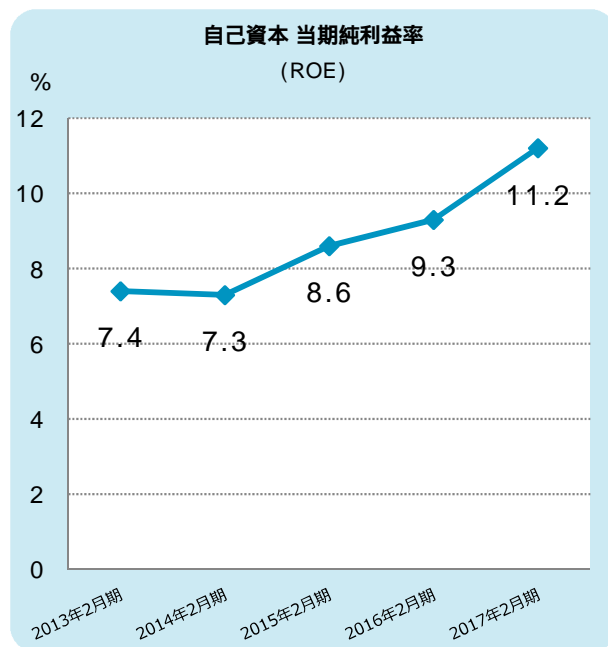
道路事業では、スバル興業(株)が積極的な営業活動による新規受注に努めるとともに、原価管理の徹底によるコスト削減や業務効率化を行い、増益を確保。

不動産保守・管理事業では、(株)東宝サービスセンター、東宝ビル管理(株)が労務費や資材価格の高騰など厳しい経営環境が続く中、コスト削減への取り組みと新規受注の開拓をすすめ、増収増益。

その他事業では、昨年12月に東宝不動産(株)の飲食・物販事業を(株)東宝レストランサービスに吸収分割、商号をTOHORリテール(株)と変更し、新たに連結子会社に含めた。

経営指標の推移

	自己資本 当期純利益率 (ROE)	総資産 経常利益率 (ROA)	売上高 営業利益率
2016年2月期	9.3%	11.1%	17.7%
2017年2月期	11.2%	12.7%	21.5%



MOVIE LINE UP

話題の待機映画作品



2017年5月6日（土）ロードショー

一つの殺人事件をきっかけに、刑事、容疑者、被害者として再会した幼馴染3人が、心の奥に封印してきた過去と向き合う様子を描いたヒューマン・サスペンス。

『追憶』

監督：降旗康男

撮影：木村大作 脚本：青島 武 瀧本智行

出演：岡田准一、小栗旬、柄本佑、長澤まさみ、木村文乃、安藤サクラ、吉岡秀隆

©2017「追憶」製作委員会



2017年7月8日（土）ロードショー

『借りぐらしのアリエッティ』『思い出のマーニー』の米林宏昌監督による、スタジオポノック第1回長編作品。全世界待望のファンタジー超大作が始動！

『メアリと魔女の花』

原作：メアリー・スチュアート「The Little Broomstick」

脚本：坂口理子

脚本・監督：米林宏昌

©2017「メアリと魔女の花」製作委員会



2017年7月28日（金）ロードショー

75万部を超えるベストセラー小説「君の膵臓をたべたい」=「キミスイ」が、この度待望の実写化！誰もが想像できない結末と、タイトルに隠された本当の意味を知った時、あなたはきっと涙します。

『君の膵臓をたべたい』

原作：住野よる『君の膵臓をたべたい』（双葉社刊）

脚本：吉田智子 監督：月川翔

出演：浜辺美波 北村匠海／北川景子 小栗旬

©2017「君の膵臓をたべたい」製作委員会 ©住野よる/双葉社

STAGE LINE UP

話題の待機演劇作品



2017年4~5月
帝国劇場公演
『王家の紋章』



2017年5~7月
帝国劇場公演
『レ・ミゼラブル』



2017年4月 シアタークリエ公演
『きみはいい人、チャーリー・ブラウン』



2017年7~8月
シアタークリエ公演
『RENT』

業績予想・配当予想

■ 業績予想

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	営業収入		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益 円・銭
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	
第2四半期 (累計)	128,900	12.1%	24,900	2.0%	25,800	3.0%	18,100	9.1%	99.46
通期	229,200	-1.9%	40,900	-18.6%	42,800	-17.0%	29,600	-11.0%	162.65

■ 配当予想

	第1四半期末 円 銭	第2四半期末 円 銭	第3四半期末 円 銭	期末 円 銭	合計 円 銭
2017年2月期(実績)	—	12.50		32.50	45.00
2018年2月期(予想)	—	12.50		12.50	25.00
(ご参考) 2016年2月期実績		12.50		17.50	30.00

本資料の内容には将来に対する見通しが含まれておりますが実際の業績は様々な状況変化や要因により、見通しと大きく異なる結果となりえることがあり、保証を与えるものではありませんのでご了承ください。
また、本資料の無断転載はお断りいたします。

本資料に関するお問い合わせ
東宝株式会社
総務部 広報・IR室
TEL 03-3591-1303